

反射性失神

「利用者が施術中に失神した」本会ではこのような相談をいただくことがあります。失神は一時的な脳血流の低下により起こる一過性の意識消失と定義され次の3種類に分かれます。

- ① 起立性低血圧による失神：寝ている状態から立ち上がる時に自律神経が機能せず発症するもの
- ② 反射性失神（神経調節性失神）：自律神経の一時的な障害により発症するもの
- ③ 心原性失神：心臓の病気に起因して発症するもの

心原性失神を除いた失神は健康への影響がないと言われています。失神は特定の条件の方だけに起こるものではなく、条件さえそろえば誰にでも起こります。多くの場合は1分間以内に意識が戻りますが、それ以上失神が続くときは意識障害として救急搬送を念頭に対応する必要があります。また、意識消失に至らなかった場合でも頭痛・めまい・吐き気などの症状を訴えることがあります。

【端座位による事故】

本会が施術事故として受ける相談では、端座位での施術中に意識を失い転倒し、壁や床に頭をぶつけ首を痛め、頸部捻挫や挫創を負ったといった内容です。特段の既往症のない利用者が施術中に失神転倒したとなると、施術中に何か不適切な点があったのではないかと利用者が不審に思うのは当然です。

転倒による受傷の検査のために通院された利用者のほとんどは、医師に『**反射性失神**』と診断され、原因は次のいずれかだと説明されます。

1. 血管迷走反射性失神

長時間の姿勢の維持・運動・ストレス・痛みなどが原因で自律神経の調整がうまくできず起こります。施術事故としては背筋を伸ばした姿勢を長時間続けたときや刺鍼で発症したとの報告があります。

2. 頸動脈洞性失神

頸部の圧迫など頸動脈洞が刺激されることが原因で起こる迷走反射による失神です。施術事故としては頸部への刺激により発症したとの報告があります。

施術家であれば迷走神経反射や脳貧血としてご存知の方も多くおられると思います。しかし、伏臥位や側臥位の姿勢が辛い利用者配慮した端座位での施術を、『失神の恐れを認識しながら事故の備えを怠った』と指摘される恐れがあります。失神の恐れを認識すらしていなければ知識不足との指摘を受けます。



反射性失神は転倒さえなければ大事に至ることはほぼありません。言い換えれば、端座位で施術しなければ失神は起こりにくく、仮に発症した場合にも転倒する恐れは軽減されます。今まで大丈夫だったからの根拠はいざというときには役に立ちません。このことから端座位での施術は安易に行うものではないと本会では認識しています。

ONE POINT

頸動脈洞性失神を疑われる場合、施術技術が未熟であるとの思い込みから返金要求に発展する恐れもあります。

JHA NEWS

☆本会ではさまざまな施術事故の症状に対しても状況に合わせたアドバイスを行っております☆

・施術トラブル / クレーム対応無料電話相談・JHANEWSの発行・会員保障制度など

ご希望の方には病気やケガで働けないときの支えとして所得補償保険を提供しています（別途保険料が必要）

国家資格者

会員種別

正会員 A 準会員

すべての治療家、施術家に
安心・安全を提供します

入会金無料

民間施術者

会員種別

正会員 B

【ご不明な点・詳細につきましては、お気軽にお問い合わせください】



一般社団法人 日本治療協会

Japan Healing Association

URL: <http://www.jha-shugi.jp>

E-mail: info@jha-shugi.jp

© JHANEWSのバックナンバーはホームページでご覧いただけます©

TEL: 03 (5289) 8171

FAX: 03 (5289) 8173

TEL 受付: 10:00 ~ 18:00 (平日)

FAX 受付: 24時間年中無休

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町2-1